

口鼻腔内吸引 口腔内分泌物や鼻汁等を吸引し気道確保を図る 誤嚥性肺炎を防ぐ

必要物品

□吸引カテーテル(Fr) □電動式吸引器 □ホース □手指消毒薬 □手袋 □水道水
□水道水を入れるコップ □吸引カテーテル保管容器 □アルコール綿 or ティッシュ

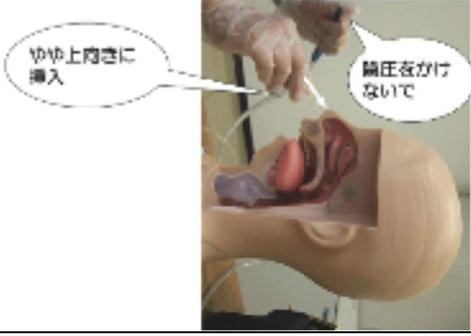
手順	留意点	
1)手を洗い、手指消毒、手袋をする。		
2) 吸引器を ONにし、ホースの先端を指で塞ぎ、吸引圧を調節する。	小児吸引圧:80~100mmhg、 11~16kpa *最大で20Kpa/150mmhg	
3)ホースに吸引カテーテルを接続し、カテーテル内に水を通す。	水道水を通すことで、カテーテルの滑りを良くし、圧のかけ具合の確認をする。	
4)吸引圧をかけずに、鼻にゆっくりカテーテルを入れる。	・粘膜損傷を避けるため吸引圧をかけない。 ・挿入の長さ:鼻から耳までの長さが目安	
5)吸引する	一回の吸引時間は10秒前後。 (低酸素血症の予防のため)	吸引圧をかけて指でねじるように、痰を吸いながらゆっくり抜く。
6)痰の色・量・性状の観察を行う。	児の状態をアセスメントする。	*アセスメントのポイント 肺音、SP02 値、口腔内の状態、口唇色、チアノーゼの有無
7)カテーテル内に水を通す。 カテーテルの周囲に汚れがあればアルコール綿やティッシュなどで拭き取る。 カテーテルを乾燥または消毒薬で浸した状態で保管する。	家族に洗浄方法を確認しておく。	

図:厚生労働省 喀痰吸引等指導者マニュアル(第三号研修)より引用

こんなときはどうする？

Q 吸引カテーテルが挿入しにくいときは？

- ・入れるときに突っかかりを感じたら、無理をせず一旦抜いて、呼吸を整えてから再度行います。（鼻腔の形態から右の鼻腔はカテーテルが入りやすいが、左はカテーテルが入りにくいことあり）
- ・使用しているカテーテルより細かいカテーテルを使用してみます。
- ・痰が粘稠で取りにくい場合は、吸入や加湿をし、痰を取りやすくします。

Q 一回の吸引で痰が取りきれなかった場合は？

- ・呼吸状態や顔色の改善を待ち、再度吸引します。
- ・カテーテルの周囲に痰がついていれば、アルコール綿などで拭き取ります。カテーテルの中に痰が充満している場合は、水道水を吸ってカテーテルを開通させます。

Q 出血した場合は？

- ・吸引を休憩します。
- ・やむを得ない場合は、吸引圧を下げ、普段よりカテーテルの挿入の深さを浅くし、吸引します。

Q 口腔内吸引と鼻腔内吸引どちらも必要な場合は？

- ・誤嚥防止のため、口腔内吸引→鼻腔内吸引の順に吸引します。